

再校
江戶砂子

街外廓
河南町筋
麴町
番町

和書門	一六五二三	一四一	八四
類	號	函	架
冊			

29

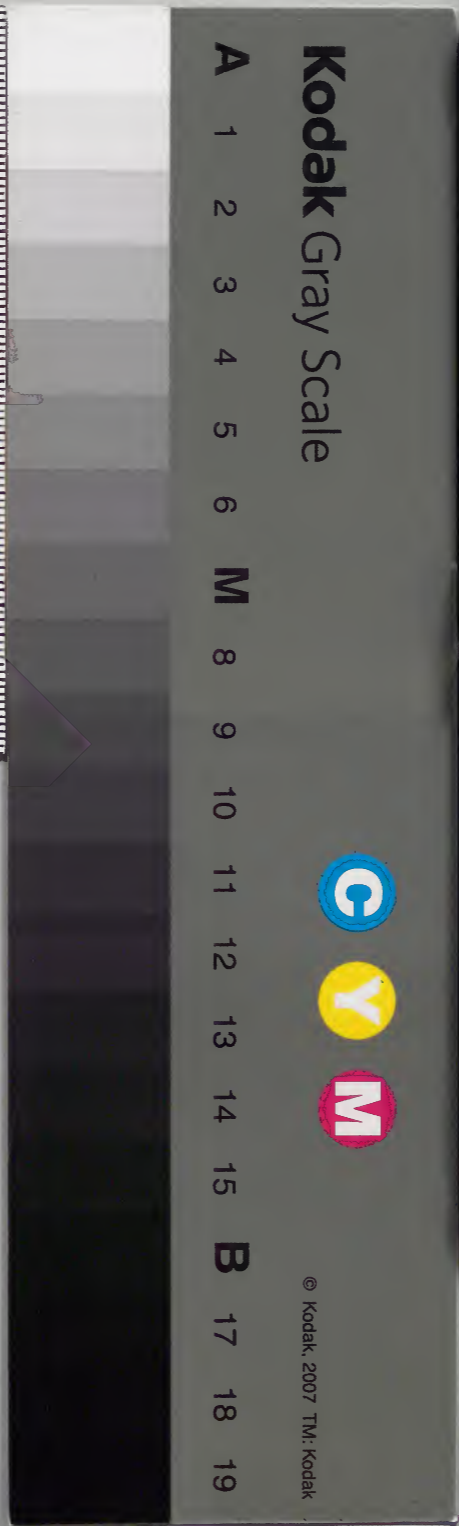
內閣文庫	一六五二三	一七四
和書	號	冊
類		架

內閣文庫	番號	和	16513
	冊數	8	(1)
	函號	174	29

地理六三

共八本

174-29



前板享保十七壬子年
再校寶曆年中
訂正明和年中

菊岡古沾涼纂緝
丹治恒足軒再校
牧冬涉齋訂正

增訂

江戸砂子

東都書林

青藜閣壽梓

即奉

武藏野乃家乃松人あすは鏡波の

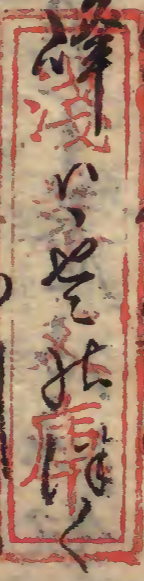
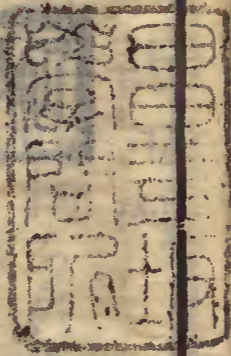
影をまきも土蔵く土條淺は是は藤く

のきあめ流れし海の涌浪勢あり

校をまきし江都の名不為跡

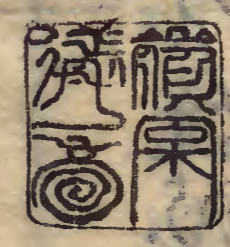
江戸雀の鳴り張るを江戸舞子此

迹を造心て全六軸方二十三隅子



再校江戸砂子

水澄をりしあふ出る鄙人の
故より温ね新き我知る事多先
温故名跡のくをよる事多
江戸砂子中より云
肯享保ノ士子梅天上浣乃日
江都神田誹林雀下菴沾源叙



新編江戸砂子温故誌凡例

○凡編纂乃序次新古に拘らぬ御城を以始り
江都の中央より方角茲より計る故は首巻ハ
先武陽此大意以論一次に御城と始りて御外
曲輪乃内は終り 第二江城の東淺州橋場は始り
下谷千住は終り 第三江城の良湯島谷中に始り
駒込小石川は終り 第四江城の乾牛込四谷は始り
赤坂渋谷は終り 第五江城の南芝西久保は始り
品川目黒は終り 第六河東深川本所は始り
亀戸隅田川真間は終り
○凡條毎に先大意以記し神社の鎮坐垂跡佛閣ハ

卓創崩山名所古跡ハ其来歴を記
 ○凡方角ハ其所々ニ圖成ハ大意成記
 ○凡諸大名御旗本御屋敷ハ武鑑ヲ讓リ町小
 路の各目ハ町濫ニ讓テ省之
 ○凡古庶子よ云工高の部ハ江府益繁花行テ
 其所一凌ナリ因テ古書ニ讓テ省之
 ○凡古庶子よ云茶器の各物を凡くの鑑財ハ
 際限ナリ因テ省之
 ○凡真間中山ハ総州葛飾郡ナリハ
 武陽に隣ナリ追加に記シテ共ニ江府
 名跡志ト云

先人好謔者止み其法其他諸技
 無所不為時曰々
 新治子百幸の物五百京後申新
 五法也至高の煎新撰抄之親
 也其歩之妙也増之之柳宿野
 撰比屋撰地法其法其法其法其法
 撰其法其法其法其法其法其法

景之物互徂隨者隨來者不有
 無所而如此者其雖不知其相
 是皆平之財也其相也其相也
 在戶地志其即也雖何明也條理
 而系隨而不其稍近于導氏系
 或五系止若他地誌而再按公于
 世更稿步而系系以八十五道

此其可憐事其樹之業其
 如也其可憐事其樹之業其
 之解者而可憐事其樹之業其
 其子系其可憐事其樹之業其
 形其可憐事其樹之業其
 其子系其可憐事其樹之業其
 志既其可憐事其樹之業其

再校江戸砂子名跡誌

凡例

- 江都方角とけしめ數條大槩前板のおとく柳誤字と正文段ハ十ア一と訂正を
- 神社佛閣も亦前板より唯享保十七子年以來の牒地を載る其餘の寺院ハ歴代現位の名録を答の
- 名所古跡又同一大名御旗本市屋敷の外ハ何れ物ハ市屋敷番向里又ハ市名かつとて當時の御名不改正を
- 所と圖とハ大意を記せる交も前板を用ふ

大名御旗本當時の市名不改正記す乃と

- 搦て支段を改まる崔下菴の丹志と傷人をいふて也名所古跡或神社或佛閣等亦崔下菴門人等の俳諧歌句向り今あまを省するの志と破るも似たりといふも亦少くより以書きり古跡名所と云ふ一ハ何れもあまをいふに依りて世にけりてあま本意よりあまをいふに似たり
- 六のしほ増補せらる其行の上は補乃一字を記あししも續江戸砂子不載る所の美村ハ移讓てあしし記され
- 寺院山號或閣基或塔等乃増補也

るもふしとてぬしと補の一字とてふは
 前板よりの前の引用の書目ハそれより記
 増補とてふなり乃引用の書ハその前ハ乃也
 以採りて未だ記
 ○再校の寶曆其のころ安永より訂正
 字の半ハひあはるはるも一ハ終
 終

○武藏國大意

人皇十二代景行天皇四十年日本武尊東夷征伐帰陳のとき秩父の峰
 武具と名を山神と祭に武具と名を山神と祭に武具と名を山神と祭に
 傳本紀武藏國秩父嵩者其勢如勇者怒立日本武尊
 美此山奉為東征祈禱以兵具納埋岩藏故曰武藏國
 以武具指置之儀訓牟佐志也
 之謂也武具者劔第一故也後名不雅故改武藏國
 大上々國 二十二郡 田畑百十六万余石 四方五日半

○豊嶋郡

江戸近在

○荏原郡

芝金杉より南 品川西目黒辺

○葛飾郡

本所葛西より北 杉戸奉手栗橋

○橘樹郡

川崎金川 下り川辺

○足立郡

千住草加鳩谷 蕨浦和大官辺

○終喜郡

都筑 非ナリ 橘樹の並

○埼玉郡

粕壁越谷辺

○多磨郡

川越辺

○大里郡

熊谷の辺

○入間郡

川越辺

○男衾郡

榛沢と比企の間

○新座郡

白子勝折の辺

○榛澤郡

深谷の辺

○高麗郡

府中辺

○兒玉郡

本庄 上州境 八幡山辺

○横見郡

吉見辺 大里とひきの界

○秩父郡

吉田小鹿野辺

○久良岐郡

金沢の辺

○比企郡

ちぶと入間との界の郡

○賀美郡

兒玉の東利根川限

○播羅郡

忍の辺

○那賀郡

兒玉と比企の界

再校 江戸砂子温故名蹟誌卷一

古 沾涼纂緝

一 御廓内 大槩

恒足軒再校 冬涉訂正

二 御外廓 河北

南ハ限日本橋江戸橋川通
北ハ限駿河臺神田川通
東ハ限淺艸川通小細町
西ハ限飯田町小川町

三 同 河南

南ハ限芝口橋
北ハ限日本橋茅場町
東ハ限靈岸嶋鉄炮洲築地
西ハ限御内廓堀

四 同 西

榎田永田馬場麴町番町

角略圖



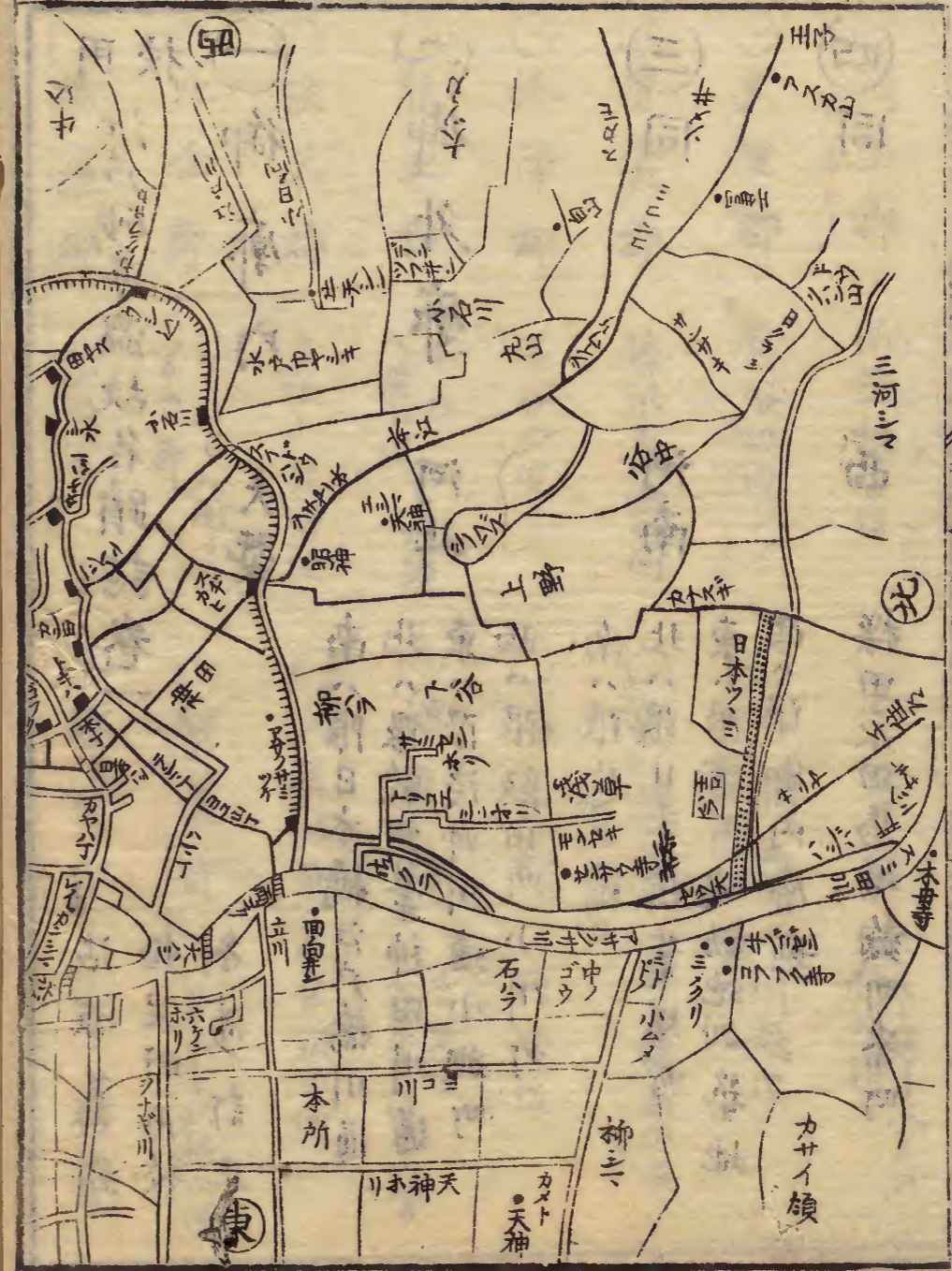
大井手

目ク口

品川

冬涉

江戸万



三河川

北

日本

カサイ領

東

豊嶋郡 峽田領江戶

風土記云

公穀五百九十二東三字田

或菴土

假粟三百二十七九三毛田

貢半濱菰阿無見與呂伊等充左右馬寮与武庫司

○御城

入皇百三代後花園院御宇長祿元丁丑年築也

源三位頼政十六代の後胤太田備中守入道道真荏原郡品川の館よりりしころ子息左衛門佐持資入道道灌豊島郡江戸の地より千代田宝田祝し所をとりて城地と取康正二丙子年よあしけりめー長祿元丁丑年四月八日巧匠の功成就と時よ京都五山の万里和尚古詩を引て此地を称せり

窓含西嶺千秋雪

門繫東吳万里舟

此地かたし以繁華より下し其言符合す奇とゆへ道高道灌はきて居城りりしよりよ享徳三年かほりし御所成氏憲忠を誅せりきてより大にみち道灌

上杉修理大夫定正の臣として扇谷に假せりあるに定正と上杉民部大輔顕定ハ不和してたうひ数度におよ道灌より人の誘ひよりて文明十八年定正のためよ七ひそのち定正朝良二代の在城かり朝良卒し上杉修理お支朝良居城と小田原の北條左京右支氏綱大永四年よ上杉朝良を七して後氏綱氏康氏政氏直四代北条家よ属し北條治部少輔遠山左衛門尉を城代とて天正十八年小田原没後一江城 御當家よ属ししてきりそのあるは西御丸のりりし御かきりいへそのの後りし御築し一萬代不易の基なり御城地 御見たてあそけり時西御丸のかより御本丸のりし白鶴きりて舞よあま千秋万歳の吉瑞なりし

御在城よはめさせたりし

○道三河岸 新の口御入堀の河岸 近幸まで御醫師
 今大路家のヤキヨリ
 ○道三橋 右のおよかり 一ツ村乃之をさせらしめ
 村少遅りしれを御とがめりし御堀とまりりし
 ○銭瓶橋 ときは橋とごり橋のるいり橋はけの村
 鉢のへし瓶とわり出りしゆのるいり橋はけの村
 ひりしおよびて永楽鉢の引籠ありし
 ○常盤橋 御大手の通りしを所へ出りし
 ときはの松の縁とより松平の御おきよて号らりし
 むし大橋といひしと西園橋作られし
 られし古江戸佐國は六太橋といひし
 といひしと記せしハ誤ト狼狂歌もは所よりの
 橋は御菓子司大久保主水の亭より寛永の御船よて

補

御成の村御尋ありしに水々直下りしとト上り半井ト養
 御前より一首はれと 上意ありし
 大橋と通しぬみともぬれし
 ○神田橋 小川町へ出上野 御成通筋
 け取神田大明神の齋地よりけ辺ひりし
 ○一ツ橋 沖田けの西に 御城取の村大木一本よて
 けしとけしゆのるいりし
 ○雉子橋 一ツけの西 ひりし羽舞人來聘のとき
 祭の雉子雞といは所は持とゆひてそりゆのるいりし
 けりし日本橋より湖より入舟は来りし
 ○清水御門 きり橋のわ け御門夏涼しく冬は
 けりて御門の坂美景とむし 羽舞人は御門より入りし
 地なりし是かめりし
 ○扇稻荷社 清水御門の内まにあり

補

○傳奏御屋敷 御評定所の南東にあり

武家傳 奏の御 勅使として毎年春向の旅館よりつてく
呼ぶるハせり俗間も誤て御評定所へ出ると傳奏へ出るといふ
御屋敷並ひて程りき少い一羽とおひり

補

○宝永橋の跡 宝永年中御評定所のおよかに板敷く
いひし享保の始火災の後からけり

○高倉屋敷 やしと一 宝永のころさ倉中納を敷御用の
ふありておけり年とゆきせりし中枯やしきの所

○御普請定小屋 淡口の川南河岸

○日本橋 南北にあり 長凡二十八間

江府乃中央に云諸方への及法はけしとえと凡川の橋造
室所一丁目は西側と尾店と云尾湯至又右の板敷やしき
りんとしぬり物尺世りけりし板敷店とて此より又此
とけりて尺世とかなるの具も亦小間物と高

東の方の河岸ハ大和町に肴店より毎日魚市あり

○一石橋 日本橋より二十かと西所内廓堀の河岸

ありし橋の南に兵衛後敷は令後敷あり少五斗く
秀句一と俗一石橋といふと又一名八橋といふ
は橋より近隣の橋七つをては橋もに八つなりゆへ
いへり一溜八橋ハ日本橋 江戸橋 兵衛橋 板治橋

一石橋 道三橋 常盤橋 一石橋 等あり

○江戸橋 日本橋より二十かとひしこは法ハいせ所

○室町 けさむしハ釋多ありしは此の通り

今に地とひきくハこの邊風といひつと

○本町四丁目 けさむしハの仕置場といひ侍

○時の鐘 本町三丁目少側の新地ありは鐘ハ

御城内よりくくると云敷度の回廊を鐘架の前く成し
その後椎名伊豫と云と法並せり黄階調とて長文の音と云

補 滝段 辻源七

○十間店 本所と石所の間大通り年々二月節句の

雛 五月三日お甲人形師まはるはと板屋の市立敷をのり

○洗炮所 けさじりの千代田村より里なりと云

○石所二丁目浪所 けさじりの福田村よりと云

○浪所封疆 明曆年中火除のより筑かれし

東西七所のりなり今おとせよと云

○白旗稲荷社 本所二丁目 別當 三寶院 大壽院

○小傳馬所 けさじり六本木といへる所の宿

今おとせの遠風よりと云る所なり

○囚獄 小傳馬所二丁目の

御入国の初はと云大板屋の徳者と捕へはし

大出番お石生帯刀と云人強情のりれと云

よりいりく其は後と云るなり

補 石出八平氏より千葉介の裔なり

○茶師堂前 小傳馬所と云古江戸の屋より

ひり浅草東光院は下より本所より

○千代田稲荷 海防の林なり小傳馬所

いり忍の下の林にありと云後よ宮を

清と云きの灵験ありと云今より奇蹟

○馬場 本所川の通りあり江戸より

関ヶ原陣の時御馬揃なり

いひつゝ本所より富田半七と云

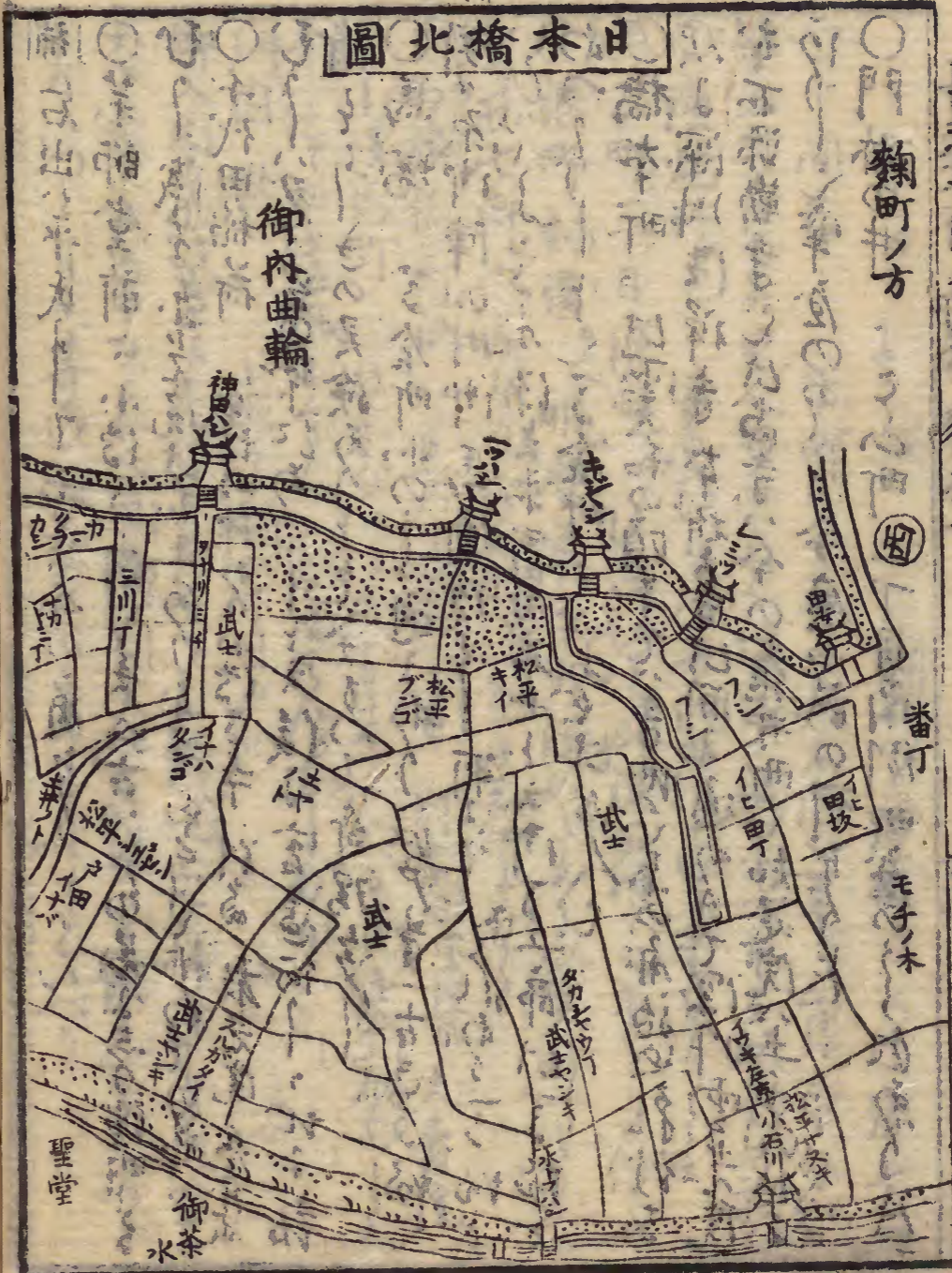
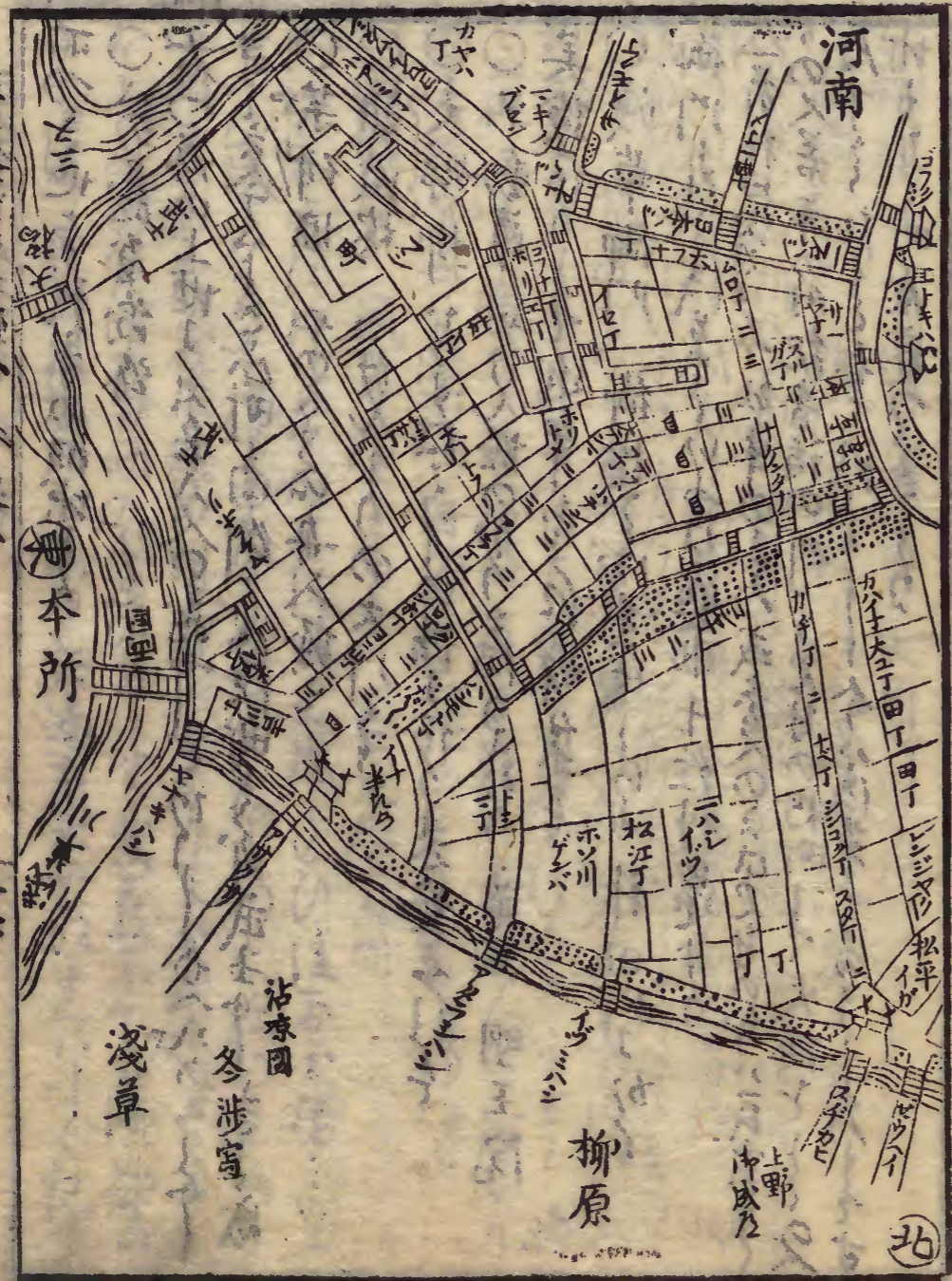
○橋本所 けさ天和の頃まで本所

次は深川法禅寺本所寺は間より

本所法勤寺はあま寺は今の龜井所

りりし本所のあり今廣小の

○門跡の井 よこ山所二丁目南側



再本所各町

一ノ

○堺橋 堀江所より新杖木所へさる境屋小なるよりのもの
 瀬戸物町しりしは所として瀬戸物といふは路一水兵九郎
 大系ゆふりといふ所ありしと今ハせしもの店なり
 ○伊勢町堀 いせ所より濠のふ小浮世小浮世として堀とまり
 ○道常橋 右向所は前より常といふものなりとかけ
 享保のありまきへけりけり

○杉森稲荷社 新杖木所

神主小針河内

▲祭礼四月十五日 新杖木をむじり 杉のふまふくらりしと
 あり 伊勢町は所小針孫をむじり所人の地は彼中一きの
 内より稲荷の小祠と實文のこり稲荷ののほり後火災
 わりてけりけり稲荷の焼せしは小祠のほりけり法人
 寺は吉川何某信仰して新よ蛭子と姐太神とお後
 稲荷の孫をむじり杉二三株ありしと神職小針ハ
 由縁ありて其苗字と相續ありものと町家のけりけり

蒲

泰清のたけり本多彈正少助後寺社奉行の時社へのたけり
 下さるり元禄十六年まきハ町家の海原と通るり
 小針の由縁ありしとけりけりけりけりけり
 ○伽羅稲荷社 大坂町 三丁稲荷 ぐせ川町
 ○山伏の井 堀所堀家中きりけりけりけりけりけり
 け井名水ありしと中ころありけりけりけりけりけりけり
 ○誰波橋 堀所ありけりけりけりけりけりけりけり
 ○元吉系 和泉町 吉神町 佐吉町 誰波町の西方二町
 のる今をけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 ○花町 け所むじり 堀本寺横山町にわりけりけりけりけり
 ありけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 ○祇園町 今せしけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

○照降所 小祇町三丁目と小あ方所一丁目のよとあつて
る踏空と下法をたをきつりて伝よとほつらふし

○浮世小路 宝所 三丁目のたつ

○浅川 本所の色にわりといふ人わりといふは川は
石所四丁目の東角の方にたつと伝ふ大講わりのりいり

○芝居 中村勘三郎 さいつ丁 日 彦竹肥前 さいつ丁
市村羽太 ぶきや 日 薩戸外記 日

大いりハ芝居所はありは附ハ芝居くも後中橋ハ芝居まろは
附ハりるものからい出来て今のま芝居のかくもそのち祇園丁
にうつりその後今のち又かほつりハ芝居ありハ
△勘三郎芝居寶永元年にハ芝居と祇園といへ中橋
とつる元祖ハ芝居ハ猿まの上ハ小うのちハ寛永九年阿宅丸
の沖船停豆より所當地ハ入船の附ハ芝居ハ今の處毛と
下ハ船まは立て音とつりハ慶長のこと

御城より 越つりといふも目録ハ令儀の猿まのちを
いへくはは芝居の宝物といへ今にわりと云二丁目と明石
のちハ明石の明曆回祿の後志はく系ハ江戶のさりと
きごうハおろし堂上ハめりハ芝居ハ別ハ共ハ
つりさりとハおろしとつりハおろしハおろしハ
と下ハおろしとつりハおろしハおろしハおろしハ
△羽は芝居寶永十年村山又三郎が芝居と祇園といへ
まろ又ハ白州堺の者といへりハ芝居ハおろしハ
村山ハおろしとつりハおろしハおろしハおろしハ
舞おろしといへりハおろしハおろしハおろしハ
すろの上方ハおろしハおろしハおろしハおろしハ
仕舞ハおろしハおろしハおろしハおろしハ
三代ハ市村ハおろしハおろしハおろしハおろしハ
竹ハおろしハおろしハおろしハおろしハ
元祖ハおろしハおろしハおろしハおろしハ
乃具建ハおろしハおろしハおろしハおろしハ

因といふ芝居のりしとて
 △教の舞妓と云温觸ハしりも羽院の御宇通憲入乃ハ法氣堪
 能の人なり舞樂とやりげ磯の禪師と云女も舞とて一之
 白水乳立をかりに太刀と云き舞し田へ男も舞といふせんト
 びりも静まつつふ後は太刀と略しりより白拍子といへり
 り小なり代との白拍子まつり人慶長のころ法液將おまといふ
 と舞女あまこの女とあつめ京四條河原よ芝居と云る妓女をれ
 ぞこれと教舞妓といふその時みどりうきさきさきおなりをれ
 女もきと市制禁わたりよりあな歌舞妓よりぬこれ亦
 因やうりれとがきと市傳共にはたして彦作師之師あ芝居
 のころとてその後さゆくはとてそのあ前向かざりといれ
 中節より一芝居と云へりし中免舞ありたりとの神も前よ
 女がうるとききせ京將系傾城さひの傳とねえよ志くそ
 後まより崎系はしと將系をくねまの影影にせしより芝居
 のあふと將系といりとのなう一のうと化り今ハ崎系
 といふは崎系といふとやう今ハ將系と云ふ目なり

△澤田信長との侍女小蛇のお通といふ秀吉
 細細の女あり後は太閤秀吉との政所より久仰と清て
 矢野の長ぐじすぬ澤よりゆきあ牛丸のうと十二段と
 化るあゆみいせねしりしは似たり太閤感一給ひ平家物語
 ハ佐治の前司行長物語を生佛といふたれしとつけたり
 お通の澤よりハ岩船換校とつけへりといふ山中城に
 よしせられ岩船とつけしと東田舎にありて表家河原ふ
 六字南無と云女を芝居と云る後ハ十二段さきうして
 ハ崎系飯と云ふとつけしととあやうりうといひり
 けりあふとつけり△又云滝野沢角と云あ換校院のあふ
 けりしと澤より物よりといはりきり曲節とけりあやうり
 ハ之後は合さるるもむくたの爪にけり扇の骨と云きり
 拍子といふりといはり都巡りといふものといはり換校
 の人京東院目費を長之師といふもの作し△慶長帝といふ
 殿殿といふ人形といはるるをなぐりしより澤田信長
 の文紙と詳しといふは江戶といふ大さのまふさき一節

く族多し一六法り者と丹波凡といふ丹波は及ぶの略漢の
歌舞妓芝居より丹波といふのは風俗とまじりたる
○相生橋 古鹿子云 筋違橋の内はさうことと町のと町小みそ
のけし松平伊賀守及申一その東門のふてけしいんを及し何
を半まつつかる也(はありいん)

○筋違橋 沐田川よりとと 神田の見附より御門也

○昌平橋 始ハ一口橋と云 十郎人の二丁か上
聖堂とけ上より川より一町 魯昌平郷のまろりてあり

○和泉橋 ともぢ人の下りりけとと柳原と云橋より

○新橋 といつてけいの志

○柳原封壇 ともぢ人より浅草橋へつく外、沐田川

○柳森稲荷社 柳原まき下 別當 仁王院

くしめ小笹の中れすありき 福りりり元禄八年けりて
やしりるを造立し江戸鷹跡帳よものりて繁昌せり

○太田姫稲荷社 ともぢ人のまき 別當 安重院
社説云神体小野篁の作よて山州淀一口村より太田道灌の作よ

○八ッ小路 筋違沖門内と云は廣小治へ八方より入所りり

○駿河臺 元ハ神田の基と云 御入國のみきり 駿府の在番元を江戸よりされけ所りや

○甲賀坂 ともぢ人のまき 胸突坂 ともぢ人の内

○泚路坂 同いかりのあ

○小川町 鷹匠町 御旗本衆のまき多し

はあじりハ田畑りりりて御旗本衆のなまよ下りりり
乃をまよよはよりりりり其乃筋曲りてなま形のひりりりりりり
はあし綿の切えハ小糸流りりり御大切と思ふとのりりりりりり

補

三 日本橋南 茅場町 靈巖嶋 鐵炮洲 築地

○日本橋封壇藏 日本橋と江戸橋のる川と根通六七尺を石垣にて根附芝蓋戸菜と町年寄の特

○四日市 江戸川南詰度少ぬのあけ取ひりハ江戸市場と云村に四の日市を云云

○式部小路 日本橋南二丁目の新屋と云

○鹿兒嶋縮荷 久志本氏屋敷の内より

○中橋 日本橋より四丁南にあり系橋八四丁ありあ

○紅葉川 江戸東の堀と云は所より松島村本町の入堀と

○五輪町 南橋より二丁目横丁と昔は石垣あり

○鷹橋 右の川筋本村本町四丁目と五丁目の間

○裁中橋 松平裁中ち成中とのあのはり

○中の橋 川筋本町の廻り堀より

○海賊橋 又石橋と云 青物町より坂本町より

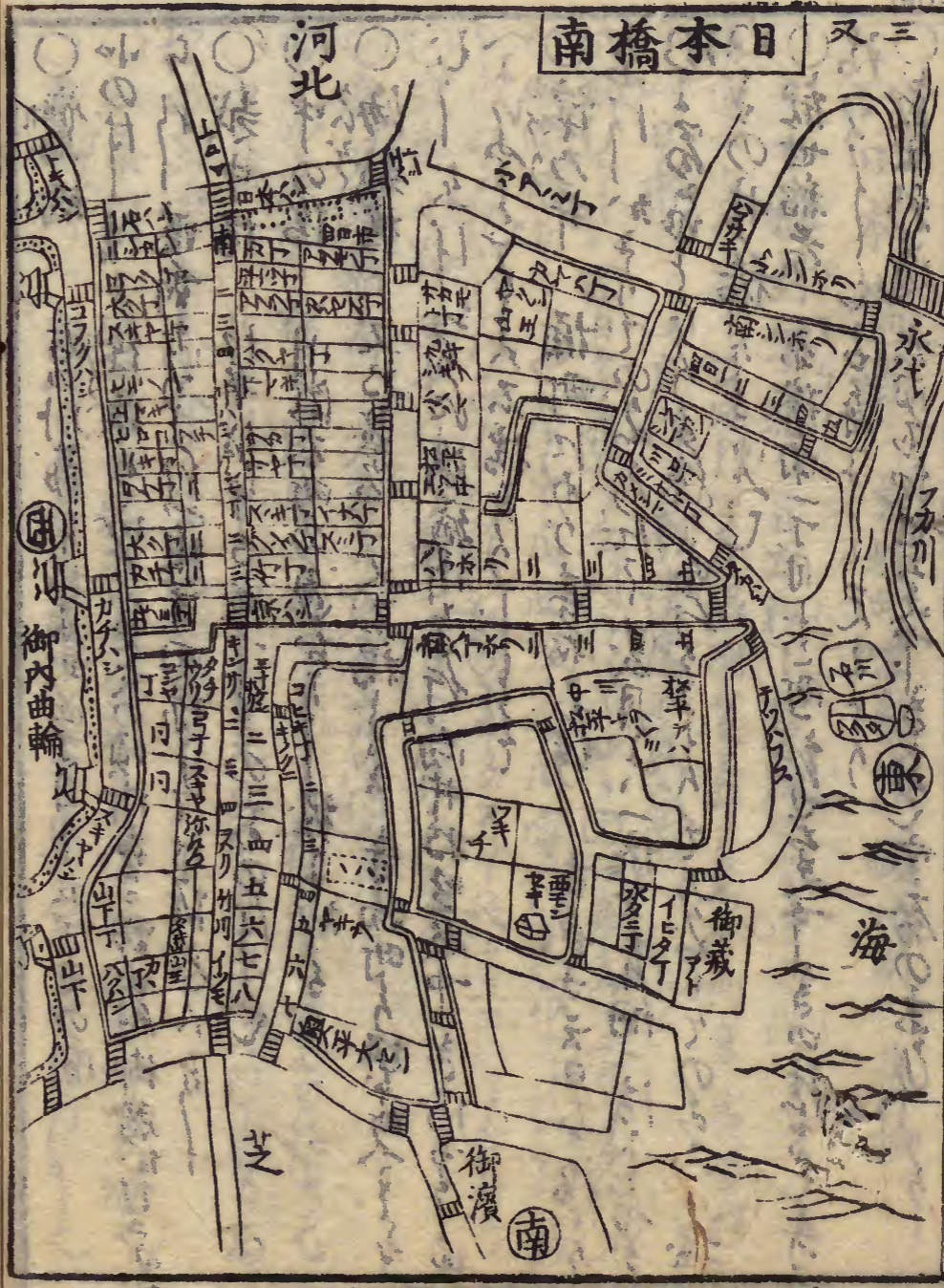
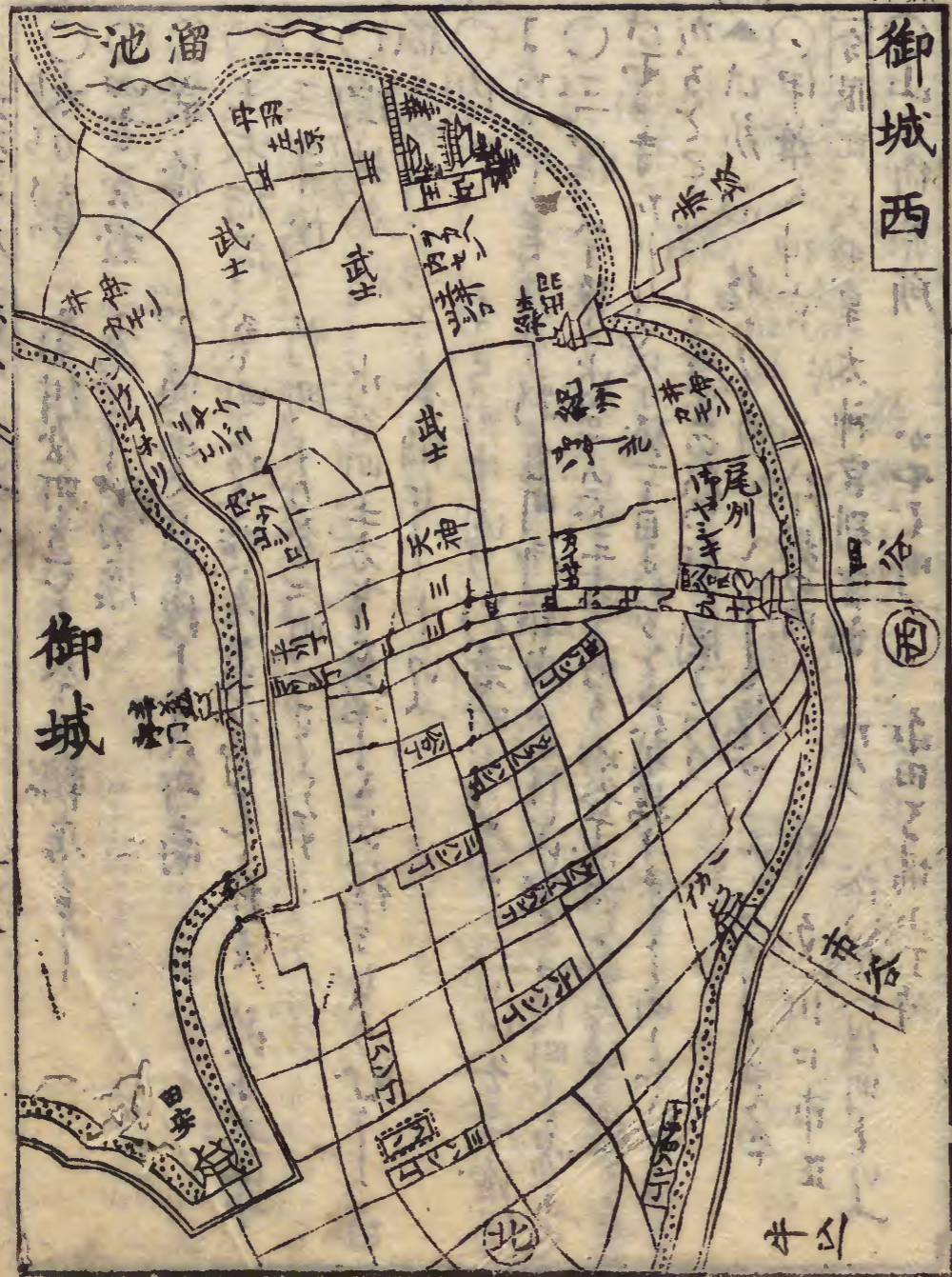
○儀乃井 桶町にあり昔は石橋 古妻子云日本橋より

○親世稻荷 系橋南二丁目と町親世を中まきの稲荷と云

○親世稻荷 古妻子云日本橋より

○親世稻荷 古妻子云日本橋より

○親世稻荷 古妻子云日本橋より



再按江戸名所志

九七

○白糸の滝 松平安菴より南向中きより玉川とせ流入りて
くろくろくろくかへりて白糸のつゞぬ流と水のいづれも
この古歌とてりてふつげりて

○潮又坂 松平安菴より南向中きより河内と名の坂といふ

○柳の井 之浦志麻呂坂中きより河内と名の井の曲と

○霞ヶ園 松平安菴より南向中きより河内と名の園の坂
由園よ名きりてありて古く奥羽一の社と云りたり

後千載とありて松平安菴の園と云ふ所の鳥と云はれりてありて松平安菴にお世
にありて松平安菴の園と云ふ所の鳥と云はれりてありて松平安菴にお世

のりてありて松平安菴の園と云ふ所の鳥と云はれりてありて松平安菴にお世

のりてありて松平安菴の園と云ふ所の鳥と云はれりてありて松平安菴にお世

のりてありて松平安菴の園と云ふ所の鳥と云はれりてありて松平安菴にお世

のりてありて松平安菴の園と云ふ所の鳥と云はれりてありて松平安菴にお世

○陶山ヶ園 井上の内と名を由名松やち中きより河内と名の坂と

又流跡坂とも云はれはてころへて之年々ちりて死といふ俗説也

○永田馬場 永田氏の所旗本中き今ハ二羽あり

○白楊 くの所の曲 由名松の中きの内よりあり

○星野山 山王持次郎の山といふ

○山王神社 永田馬場より 神領六百石 別當 勸理院僧正
祭神 江州日吉同神より 神社啓蒙 曰所祭神七座大宮大己貴

命二宮國常立尊神皇産靈尊聖真子正哉吾勝尊八王子國

狭植尊客人伊弉册尊 十禅師瓊々杵尊 三宮檀根尊 右

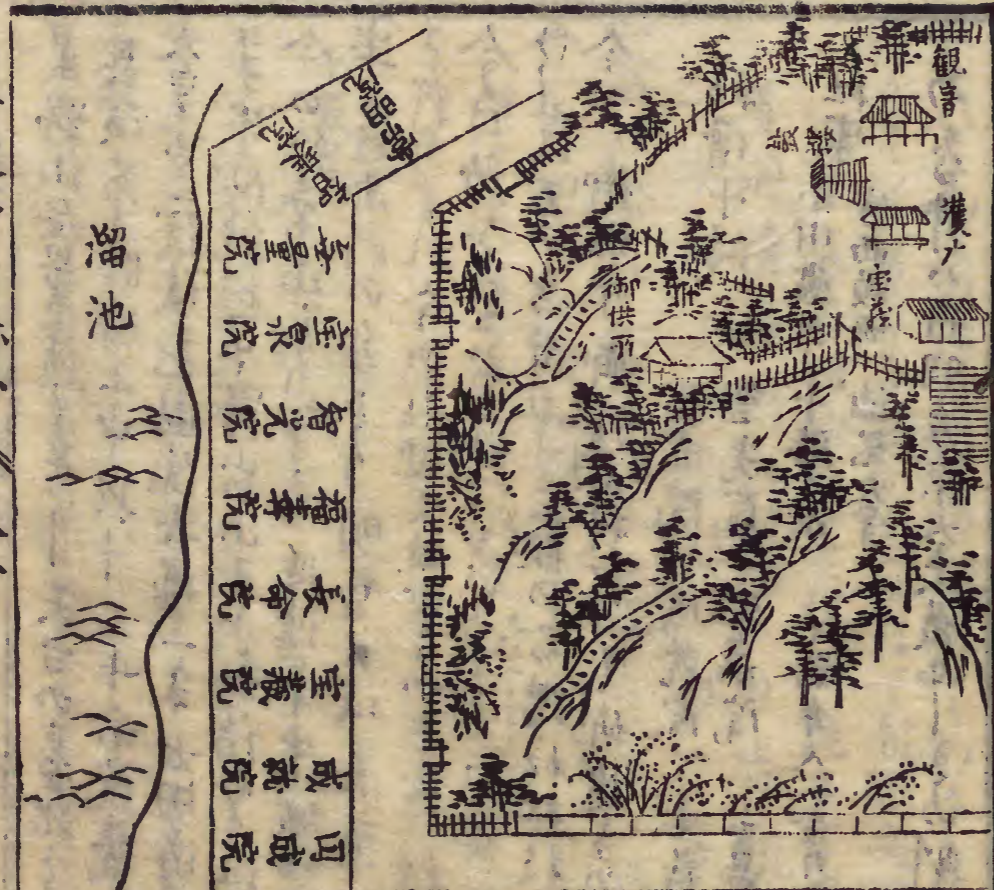
本宮七社也 所屬十四座加上七座称二十一社 延喜式十一

近江国滋賀郡日吉神社名神七 同三名神祭部云日吉神社

一座注云比叡神同傳記云山王権現者碓城嶋金刺宮欽明即

位元筆自天降于大和国碓城上郡而現大三輪神下略其外れ

あれの書にくりりて略 當社ハ入間郡川越仙波といふ所
あり七古仙臺仙人の御一古跡なりと云受大師茶室あり



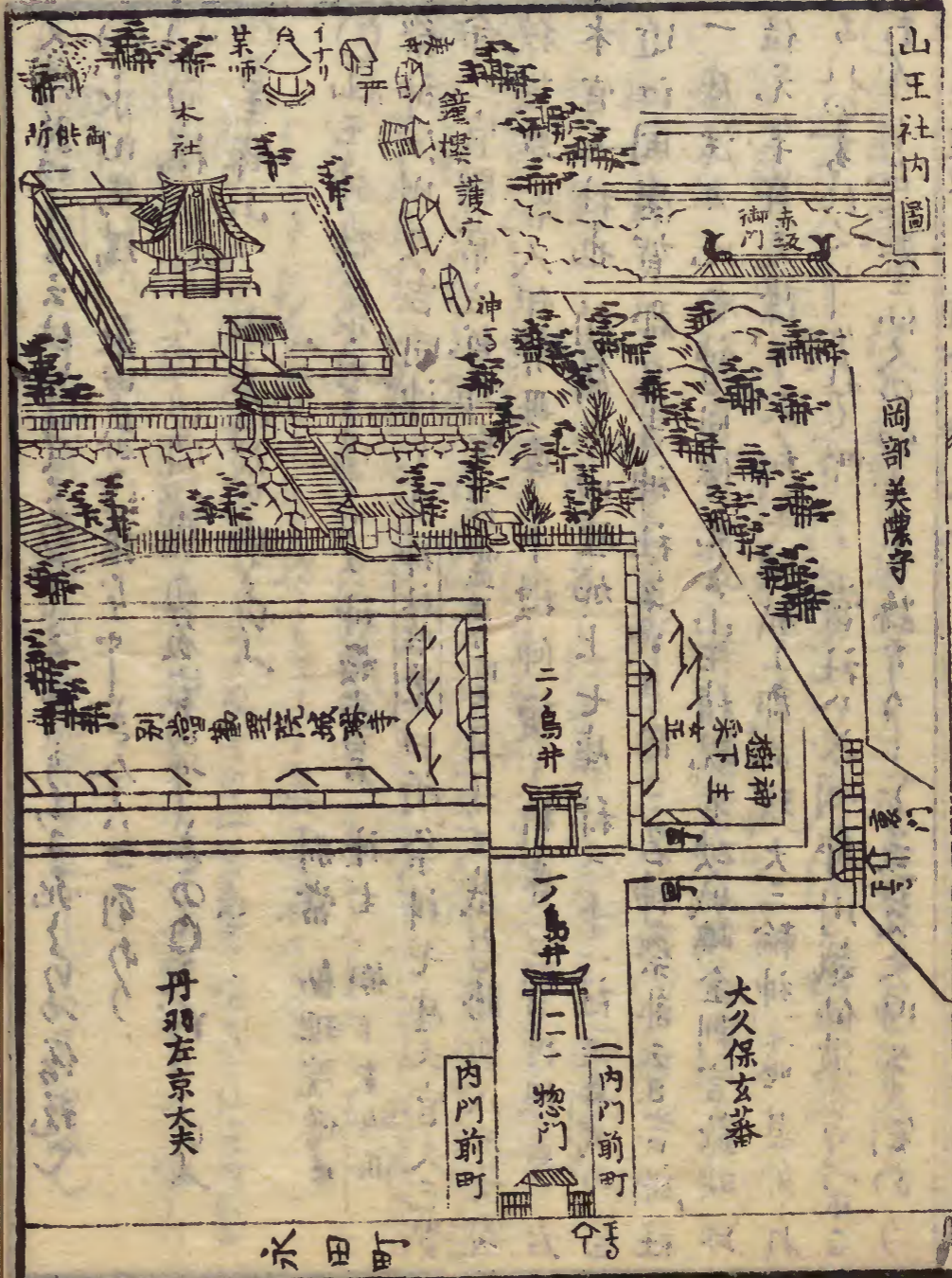
官西 頼母 千勝 千人 千勝 主水 金丸 教員 小川 織部 南鬼 大字 左也 大内 伊賀 織部

本多伊勢守

辛卯春改正

冬波圖

内藤紀伊守



山王社内圖

岡部美濃守

大久保玄蕃

内門前町

惣門

内門前町

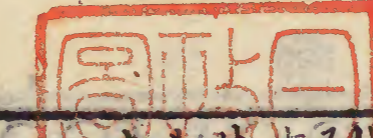
丹羽左京大夫

永田町

丹波国丹波郡

補

補



爲すその科よりて殺害せしめぬ悲をりの井よとまり
 毎夜その女の声よて一より九つまでとがぞへ十といひて泣きけり声
 ありてかゝらりて一より九つまでとがぞへ十といひて泣きけり声
 よ祠あり俗よこれと血の神といひてその女の冥をねふといひ六非
 ○筑土社舊地牛込河内の少東に米倉ありやまきのちよ大榎
 一もとありこれつくとこの神本といひつよお板赤城社の趾と
 けりハ湯と赤城の法ハ牛込河内松寺の北田の中より
 ○田安稻荷 牛込河内の例よけり 筑土別當 成就院持
 ▲番町ハ小路多くやりにて尋ねてきよ表裏何番町とハ
 いと必その表裏隣りともありて心法寺にあり境内廣く
 井修家中やまきよ世よ千疊敷といふものあり加友清正の建ち
 寺ハ池のたよりアハ村の化けり

一之巻軸

